

苦情事例登録用紙

登録 No. NI-18- 011

登録日 2019 年 3 月 5 日

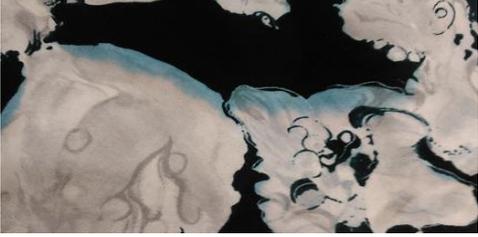
商品名	ワンピース					苦情原因・現象の分類	色泣き
	分類Ⅰ	分類Ⅱ	分類Ⅲ	分類Ⅳ	分類Ⅴ		
	婦人	外衣	織物	染色	着用		
表示事項	組成		取扱い		付記用語	サイズ	
	表地 綿 100% 裏地 レーヨン					原産国	
その他							
苦情内容	(消費者→アパレル) ・4～5年前に購入。1シーズン着用後、ドライクリーニングを行いクローゼットに保管していた ・久しぶり(2～3年後)に着用した際に雨に濡れしまい、家に帰ったら色泣きが発生していた						
外観	黒のプリント柄から青い染料がにじみ出ている。主に右側の肩と袖、裾の白場が汚染されている						
聞き取り・調査結果	①着用、取扱い状況 ・雨に濡れた時の状況。傘をさしていたか、傘の大きさ。雨に降られていた時間 ・どの時点で気が付いたか、その後、どうしたか ・保管状況、高温、多湿ではなかったか。保管場所、交通量の多い道路に面していないか ・購入時期 ②販売前の試験結果 ・洗濯、ドライクリーニング、汗堅ろう度は良好						
検討事項	①表示 ・ドライ表示(水洗い不可)であるが、綿素材であり水洗い可でもよかったのではないか ②材料、染色方法 ・反応染料によるプリント品 使用染料とプリント方法を確認する ③再現試験 ・在庫品使用 色泣き、水滴下、水堅ろう度試験 ・経年劣化なので、再現は難しいと考えられるが、酸化加水分解試験、Ciba法やATTS法(高温多湿環境処理)などによって使用染料の加水分解を観察する						
苦情原因	①繊維-染料間の結合の加水分解 ・大気中の酸性ガスと繊維に含まれる水分により、染料が経時的に加水分解を起こし化学結合が切れ、雨に濡れたことによって、色泣きが発生した ・反応染料染色品の繊維-染料間の結合の開裂の要因としては、高温処理での酸素系漂白剤の影響なども考えられる					< 苦情部分の写真 >	
今後の対策	①テキスタイル ・耐加水分解性の良好な反応染料を選択し、使用する ・使用染料に適したフィックスを行う ・染色後はソーピングを十分に行う ②アパレル ・「水洗い可」の商品にする(デザイン・副資材の検討) 毎年着用して水洗いしていれば、このような状況は避けられることが多い 裏地は水洗い可能なポリエステルに変更する ・取扱注意表示 「洗濯後、すぐに脱水、すぐに干す」という付記用語を付けて、濡れたまま放置しないよう消費者に注意喚起する 「高温多湿を避け、通気のよい場所に保管してください」など、保管方法についても消費者に情報を提供する ③試験 ・プリントや濃淡組合せ品の場合は、必ず色泣き試験を行う ・酸化加水分解試験(Ciba法など)の実施 ④クリーニング ・プリントや濃淡組合せ品の場合、受付時に色泣きの有無を確認する						
その他	トビックス						

図1 苦情品の外観

図2 苦情品の外観(色泣き部分)